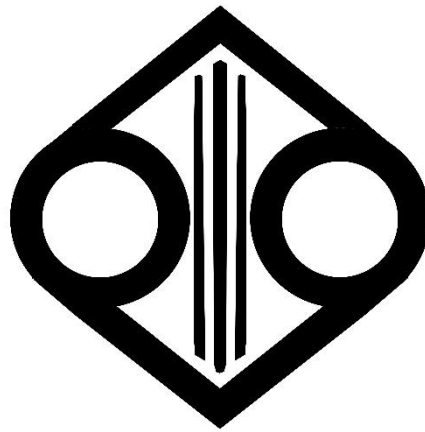


令和 6 年度
学校関係者評価アンケートの分析と提言



自立の学び舎 世田谷区立砧南小学校 学校関係者評価委員会

委員長	山本 哲也
委員	田中秀一郎
委員	伊藤 雅代
委員	橋本 亮子
委員	日高 英光
委員	佐々木由実

はじめに

「令和6年度世田谷区立小学校関係者評価アンケート調査」を、令和6年11月に実施した。5・6年児童351名、保護者742名（回収率67.5%）、地域協力者31人（36.5%）の回答を得た。アンケートは昨年度に引き続き、ICT機器を活用して行った。保護者、地域協力者は紙媒体での回答にも対応したが、保護者の紙媒体での回答希望はなく、地域協力者には紙媒体での回答もあった。

なお、本分析では各質問項目に対するA（とても思う）、B（思う）と回答した割合を合わせて肯定的評価としてとらえている。

回収率について

昨年度、保護者は54.0%、地域57.1%、児童93.0%だった。今年度は、保護者が67.5%、地域36.5%、児童93.1%だった。

児童は、それぞれの学級で一斉に行うため、変動はない。

地域は、昨年度より配布件数を増やした。回収率は下がっているが、回収数だけ見ると昨年度と変わらず、アンケートに協力していただける方が限定されていることが考えられる。

保護者回答率は、昨年度より上がっている。今年度は、すぐーを5回配信した。（1週間前に事前のお知らせ、当日、中間、しめきり2日前、当日）その結果、約13%上昇している。

全体的な傾向として

傾向としては、昨年度と同様である。全体的に肯定的評価の割合が減っているが、校長が代わった時には、一時的に下がることが多いため、来年度の結果も踏まえて考えていきたい。また、「分からない」の割合も全体的に増えている。（回収率が上がった結果、共働きの忙しい家庭や関心の低い家庭のアンケートへの回答が増えたためとも考えられる。）学校教育にもこのアンケートにも、どのように関心をもってもらえるかも今後の課題となるかもしれない。

1 人と人とのつながりについて

児童アンケートの結果で、肯定的評価の割合が大きく減少している項目を挙げてみると、
「私は、学校のきまりを守って行動している」89.1%→79.7%
「先生たちに相談できる」83.9%→75.2%
「私は家族、先生、友達に自分からあいさつしている」90.1%→81.8%
「誰かが困っていたら、声をかけたり、助けたりしている」93.1→83.5% となっている。

【提 言】

上記の結果から、児童と教員、児童と家族、児童と児童という関係性に変化があるのではないかと考える。

「きまりを守る」と「相談できる」の項目は、アンケート実施の前に学校で何かしらの指導があると、数値に影響することが考えられる。（例えば、きまりを守れていないと学級指導、もしくは学年指導があった直後だと、肯定的回答が少なくなるなど）

しかし、「あいさつ」や「声をかける、助ける」の肯定的評価が減少していることは、児童と児童を取り巻く人々との関係（つながり）が希薄になってきているのではないかと危惧される。また、ICTが普及し、児童が容易に使用できるようになったことで、コミュニケーションの中心がSNSになりつつあることも、その一因ではないかと考える。そこで、学校には「関わり合った」から

こそ得られるよさを実感させる取組を行ってもらうように要請する。

また、きまりについては状況に応じた見直しが必要だが、その際、児童と共にルール作りをしていくことが、意識の向上につながると考えられる。そこで、児童の自律心の育成につながるこの方法を取り入れることも今後、考えてほしい。

2 ICT機器の活用について

インターネットや SNS のメリットやデメリットについて親子で話し合う機会の確保に関する項目では、保護者の肯定的評価が84.4%に達しているのに対して、児童は54.1%に留まっている。これは昨年度もほぼ同様で、保護者が87%、児童が57%だった。

【提言】

この結果から、児童と保護者の間に意識の違いがあることが分かる。保護者は家族でインターネットや SNS などについて、話し合っていると思っているが、児童はそうしている意識があまりないということである。ICT 機器の利用については、児童が保護者より詳しいなど家族で話題にすることが難しい面もある。

学校では、現在も行っている「セーフティ教室」や「ネットリテラシー醸成講座」などを継続して行い、保護者にも声掛けして家族で話題にする機会を作してほしい。

また、よくない面を伝えるだけでなく、ICT 機器を活用した新しい技術に触れる機会を増やし、それについて家族で話し合うことができるようになることを期待する。

3 学校からの情報提供について

学校からの情報提供については、次のようなアンケート項目が設定されている。

「様々な便りなどで、情報を提供している」「学び舎の区立(幼稚園)中学校について情報が提供されている」「ホームページやメールなどで、情報を提供している」「学校の重点目標を伝えている」「地域に情報を提供している」「自然災害時の対応を提供している」

「様々な便りなどで、情報を提供している」の肯定的評価が85.7%、「ホームページやメールなどで、情報を提供している」の肯定的評価が86.5%と、情報提供自体は肯定的評価が高い。一方で「学び舎の～」の32%や「重点目標を～」の73.1%、「自然災害時～」74.7%というように提供の内容が限定的になると、肯定的評価が低い。

【提言】

学校からの情報提供の項目については、例年低い傾向にある。しかしながら、今年度、情報提供自体は、肯定的評価が昨年度より増加しており、情報提供への評価はよかった。すぐーでの配信、学校ホームページの毎日更新の成果であると考ええる。一方で、学び舎の取組や学校の重点目標、自然災害時の対応についての情報提供は、さらなる改善を求める。

おわりに

令和6年度は管理職の異動もあり、交換授業やプロジェクションマッピングなどの新しい取り組みが多く見られた。学校からの情報発信もより活発になるなど、保護者や地域の方に積極的に理解と協力を得ようという思いが伝わりつつある結果もあった。引き続き、子どもたちが楽し

く安心して通える学校を、学校・保護者・地域が一丸となって作れるようにしていきたい。